

平成23年度学校教育審議会委員意見（平成24年5月2日）

（平成23年度倉吉市教育委員会の重点施策に基づく実績、施策等の評価について）

【重点施策1】

倉吉市教育振興基本計画の進ちよく管理

学校・学級の適正規模、校区のあり方についての検討

学校教育施設・教育施設の整備運営

学校給食センター調理業務の民間委託

- ・学校、学級の適正規模や校区の在り方についての検討は、継続して審議され答申がでたのは進展である。今後、地域との対話が計画されているが、意見をまとめるのは相当困難が予想されるので、まず地域の役員等への理解を求め地域の中での話し合いを深めることはどうか。（市教委は入らない集い）
- ・現在の河北中への施策面の配慮をお願いしたい。
- ・学校・学級の適正規模、校区のあり方について答申が出されるまで実施できたことはよかった。今年度各地で説明会が開催されるが、より早い段階でいつ頃を目標にして校区、学校再編を考えてるかきちんと明示すべきである。
- ・評価としてはAで妥当だと思う。後は各地区での学校・学級の適正規模、校区のあり方について、丁寧な説明をし、意見をしっかり出していただくことが大切だと考える。
- ・校区のあり方については、大きな成果があった。
- ・教育委員のリレーコラムはそれぞれの顔が見えて良い。”
- ・計画的によく進んだと思うが、そのどれをとってみても実は「倉吉市の財政事情」という大きな課題が横たわっている問題であると捉えている。そのことをしっかり伝えていくことを通した実行であれば、市民の共感は得られやすいと考えてきた。そこで必要なのは、市の各課とのすり合わせと市議会議員との問題点の共有化だと思う。されていたのかも知れないが、「校区のあり方検討」で最もそのことが要るようになってきた。どんな施策も単独ではなく、関連性・問題の共有化こそが一步前進する基本であるように思っている。
- ・精力的によくやられたと思う。
- ・施策3については、倉吉市が指定している「食に関する研究指定」も取組内容の一つになるのではないかな。
- ・教育委員の活動が学校教育に偏っているように思える。広い視野で教育をとらえ、その中で学校教育はどうあるべきかを考えることが大切である。（倉吉市教育委員会の活性化）
- ・意見等特にない。以下も同様。

【重点施策2】

学ぶ意欲と基礎学力の向上をめざす子どもの育成

- ・適正な評価がなされている。
- ・学校体制づくりをしっかりとするには重要な分掌（研究、生徒指導、特支教育等）で学期毎の評価を取り入れ公表していく。年度途中でのふり返りをしっかりと指導して欲しい。
- ・新学習指導要領が中学校でもはじまる。内容の増加による勤務時間の超過について十分に配慮を。部活動の在り方を市教委で指導することはできないか。（教師の負担増になっていく）
- ・学校計画訪問について年2回の予定だったが、結果として1回しかなされなかった。学校への評価も返ってきていない。（県・市の指導主事からの授業参観の感想・意見は聞けたが、各教育委員さんの評価がなかった。）
- ・1 弾力的できめ細やかな指導を行うための体制づくり B→C
- ・3 授業改善・教職員の指導力向上 B→C
- ・評価は妥当だと思う。
- ・何のために学ぶのか、夢や希望のもてるキャリア教育と結びつけた学力の向上をめざすことが必要と思う。
- ・計画訪問が予定通り実施できた。
- ・Aにならない背景は、各校の向上が認められなかったということか。施策2は、学校のあり方を問うていく施策であると捉えている。指導助言がねらいではなく、計画訪問というチャンスを通して各校が「自校のあり方の振り返りや方向性の樹立を確固なものにしていく」ための大切な機会であると捉え、じっくり聞いて応援・支援していく繰り返しを重ねてほしいと願う。そのことが、学校を変えることに繋がっていくのだと思う。
- ・よくわからない。
- ・計画訪問は現場の教職員にとって教育委員の方と協議ができる貴重な機会であると思う。しかし、2年間に1回であり、方法の見直しの検討もあってもよいのではないか。
- ・施策1については、学事訪問とも関連があると思う。
- ・施策3については、県教育委員会が行っている要請訪問と関わる。効果的な連携を図りたい。

【重点施策3】

心豊かな子どもの育成

- ・地域における青少年健全育成協議会をはじめ各種関係団体との連携を図ること、教職員が地域を良く知ることが大切。
- ・道徳教育の実践を9年間しっかりと積み上げることが必要。子どもの根底にある道徳観を確立しなければ対処療法に終わってしまう。

- ・不登校の解消は学校では限界がある。SSWが家庭に入る動きが見られない。1年生を中心に継続した取り組みが必要か。学校の負担を軽減できる動きを期待したい。学校での問題行動は対応しているが学校外での問題をどうするか。
- ・C評価を解消すべく具体的な取り組みを。
- ・人権意識の基盤は家庭でつくられる。もう少し家庭における子育てのあり方について支援を充実する必要がある。
- ・不登校、問題行動の未然防止、進路指導の充実等、Cで妥当と思う。
- ・人間関係づくり、人権の視点に立った温かな学校運営、より一層の自己肯定感、自尊感情を高める努力と正義感の醸成を望む。
- ・心のノートの活用が十分にできているのかどうか。
- ・B・Cというのは「教育委員会としてもっとやれたらろう」という評価にとらえればいいのか。新しい事業等についての施策の達成は見られたように解釈する。1・2については、委員会・各校への働きかけに関して不十分だったということでしょうか。2年目・3年目と濃くしていくことで認知度が高まるのが大切だと考えている。
- ・3に関しては、実績を「まだまだ」と見るのか「それなりの成果」と見るのかということなのか？この問題は、発生したところから始まる問題把握ではないことを誰もが理解している。教育委員会が成果を上げようと努力すると同様に「学校・家庭・地域」が心一つにして取り組まなければならない問題だ。単独評価できるとは考えられない。
- ・3-3が実績評価Cになっているが、Bでもよいのではないかと思った。
- ・「心のノート」活用事例集が作成されたことは素晴らしいことだと思う。今後の活用にあたっては、県教育委員会の道徳担当指導主事とも連携させてほしい。

【重点施策4】

たくましい体をつくる子どもの育成

- ・適正な評価がなされている。
- ・喫煙防止、性教育は毎年児童生徒に必要であるので必ず実施して欲しい。
- ・中学校でも小学校が実施している生活習慣の状況把握とPTAへの指導と連携を深めていくことはどうか（中学校での実施は少ない？）
- ・防災安全教育をどう地域と連携するか。
- ・「親子で学ぶ食の教育」は今後も継続して欲しい。
- ・B評価で妥当と思う。
- ・喫煙防止や性教育についても、将来親となることを想定しながら、一層の工夫と継続を。
- ・児童・生徒自身の危険回避能力の向上と、時には支援者となり得ることも想定して育成を。

- ・自らが、自らの命を育み守る主体であることの自覚を。
- ・夏休み中のラジオ体操は教育委員会としてどの様に指導しているのか？
- ・野外活動の中で自然のさまざまな面を見て体験して、自然と人間との繋がりをを勉強する機会がもっとあればと思う。
- ・どの項目でも言えることだが、“BはどこをどうしたらAになるのか”という視点で読んでいくと今ひとつ見えないというのが実感である。食育の取り組みについては、非常に具体的で納得だ。防災教育等については、各校単位ではなく地区・市あげての大きかりな訓練等の実施が急がれるように捉えている。それぞれが持っているものの見直し程度では不十分だと思う。施策としてリーダーシップをとっていただくことが要るように思う。
- ・施策評価はAでもよいと思う。
- ・施策3については、倉吉市が指定している「食に関する研究指定」も取組内容の一つになるのではないか。

【重点施策5】

地域に学びまちに誇りと愛着をもつ子どもの育成

- ・地域の良さを掘り起こす取組み、地域の行事等に積極的に参加するような構え等、教職員の姿が地域に見えることも大切。
- ・生の文化・芸術を児童生徒に見せてやりたい。学校の希望も大切だが、市教委からの指導も。
- ・地域学校委員会は小学校では実施の校歌があったようだが、これからは中学校での取組みをどう効果のあるものにしていくのか。中学校では委員の意見を聞くだけで具体的なものになっていない。生徒が地域に出て地域の皆さんからよく活動をするという嬉しい話しは多く聞くが。
- ・地域学校委員会の設置はされたが、今までの取組みとの差がわかりにくい。（設置によって変化したというより、このことを意識し、実状を調べることでボランティアの人数がわかってきたのではないか） A→B
- ・B評価で妥当と思う。
- ・地域とのつながりが、非常に上手くつながってきた校区もあれば、今一つの所もあるよいだ。
- ・地域と学校、大人と子ども、いずれも一方向のベクトルではなく、大人と子ども、双方向のベクトル、キャッチボールで取組みが充実していくように。
- ・学力・体力・心の育成、キャリア教育においても地域とのつながりの強化を図って欲しいと思う。

- ・全地区で教育を考える会が実施できたことは良かったが、その内容と成果はどうか。
- ・各校区がもっと校区の歴史・文化を学べるような機会を作り、他校区との交流との中でお互いの歴史・文化の違いなどを勉強していくことが出来ればと思う。
- ・施策1でねらっているのは、足下の自然や文化のよさの掘り起こしだと理解している。遠方に出かけなければ出来ない体験もあるが、まずは“ここから”の気持ちで住んでいる地に誇りを持つような取り組みを探る教育活動の展開が必要ではなか。地のない芸術文化活動の引き寄せはどんどん工夫していくことを続けてほしいと思う。「私たちの倉吉」は、そんな契機にしていくためのいい教材ではないのか。次のステップへの方向性を出すことがAなのだと思う。支援ボランティアの多様な姿に学ぶことから始めてほしいと思う。素晴らしい取り組みが功を奏し続けますように。
- ・個人的関心から、Aになるように頑張してほしい。
- ・地域学校委員会が立ち上がったことは大きな成果だと思う。教育を考える会が13地区すべてで実施できよかった。

【重点施策6】

よりよい倉吉教育を目指して

- ・家庭教育の重要性を一層認識することが大切。保幼における保護者の研修、小中におけるPTA研修の在り方を見直すことが特に必要。
- ・特になし
- ・幼児教育研究会が教育委員会手動で行われるようになったが、そのよさが感じられない。
- ・A評価で妥当と思う。
- ・支援を要する子どもたちへの周囲や家庭や児童生徒の認識や理解はまだまだと思う。人権教育の学校・家庭でのより一層の充実推進を望む。
- ・家庭の教育力の向上が求められるが、困難な家庭も増えている。教師一人ひとりの人間力の向上も必要。
- ・家庭教育の充実ではPTA組織の充実にもっと力を入れるべきでは。リーダー育成研修会の成果は。
- ・幼児教育・家庭教育に関しては、現在の取り組みの充実、小・中学校との連携の充実を行っていただきたい。
- ・特別支援教育への支援や配慮が進んだことや教育助成の充実で一定の成果が見られたことでA評価ができたことは大きな成果だと思う。幼児教育や家庭教育のあり方を協議したり、学びを進めて実践化へ結びつけていくまでにはまだまだの感があるが、子どもの育ちの起点であり、基点となる教育なので、一層リーダーシップをとっていただき、滑らかな取り組みになるよう期待する。

- ・よくやっておられると感じる。
- ・「個別の支援計画」が作成されているが、就学前から小学校への引き継ぎ、入学後の活用について、行政からの働きかけや指導が必要だと感じる。
- ・特別支援学級の教育課程、評価について学校の実態を把握しながら指導していくことが必要ではないか。市教育委員会とLD等専門員との連携が必要だと思う。
- ・家庭教育の充実に関しては、子ども家庭課や生涯学習課との連携が必要だと思う。

【重点施策7】

学校給食センターの栄養教諭等による食に関する指導

- ・適正な評価がなされている。
- ・継続して実施を。
- ・年々栄養教諭の授業力（指導力）がアップしてきていると思う。努力を評価している。
- ・A評価で妥当と思う。
- ・小学校1年での「親子で学ぶ食の教室」を中学校でも、どの学年かで1度してみたらどうか。”スポーツしている人 これから産み育てる人に必要な食”という視点から。
- ・「親子で学ぶ食の教室」は保護者の参加率を上げるよう努力すべき。
- ・その通りだと思う。
- ・よくわからない。
- ・栄養教諭、栄養職員による指導が定着し、成果を上げている。
- ・しかし、栄養教諭、栄養職員が手厚く学校を訪問すればするほど、学校が栄養職員に任せてしまう・・・という部分があるのではないかと危惧する。取組が定着してきたので、次は、作成された指導計画を学校で活用していくような働きかけを考えてはどうか。（市の研究指定との関わりと啓発）

【その他感想等】

- ・重点施策毎の評価も大切なのですが、施策が互いに補完し合いながら、全体構想の教育理念への達成度評価がくるように思う。それぞれの施策の達成に至る取り組みの過程にある「ひと・子ども」という軸がぶれてしまわないことこそが大切だと思う。“よくできた Aだった” “あまりできなかった Bだった・Cだった”というのではなく、「人づくりに向けた施策」として、全体的に“行きたい・帰りたい・住みたい”心の醸成に向けた段階的な取り組みがどれほど進んだのかという振り返りをすることで不足している面も出てきそうな気がする。